

「浅野さとし」2期目に向けてラストスパート



衆議院の任期も残すところあと6ヶ月となり、浅野議員の2期目への挑戦が近づいてきました。

浅野議員については、国会での質疑の様子が報道番組で取り上げられる機会なども多くなり、とても精力的に活動しています。

原子力行政やコロナ対策など、国と地方との連携強化のためにも、引き続きしっかりと支援していきます。



編集後記

「天災は忘れた頃にやってくる」

その教訓のとおり、2月13日夜に福島・宮城で震度6強を観測する地震が発生。幸いにも揺れは続くことなく収まったが、東日本大震災のことを思い起こさせた。

今年も3月11日を迎え、あの震災から10年の月日が経過。この日を境に、当時は生まれていなかった小学1年生の息子が、震災のときの状況などを色々と聞いてくるようになった。

あの瞬間はどこで何をしていたのか、どうやって家までたどり着いたのか、自宅はどんな被害があったのか、停電の間はどうやってご飯を食べたのか、などなど。

当時を思い返しながらかくと、真剣な眼差しで話に食い入る息子の姿。

3月11日にこだわることなく、ふとしたときに、繰り返し繰り返し震災で得た教訓を語り継ぐ必要がある。

(す)

VOICE ~ リレーで綴る村民の声 ~



塚田 洋さん
(舟石川駅西在住)

私は結婚を機に東海村へ引越してきました。

東海村を選んだ理由として、私の実家と妻の実家の間、そして勤務先から遠くない場所、それが東海村でした。距離を優先して移り住んだ場所でしたが、子育て支援・医療・福祉の充実など、子育て世代の私たちには申し分のない場所でした。

今後もおち議員には質の高い子育て支援の取り組みや、村民一人ひとりのニーズに合わせた柔軟な対応をとって頂き、誰もが暮らしやすいまちづくりをお願いしたいと思います。

わかば通信

第53号
令和3年4月発行

東海村議会議員

おち辰哉

議会報告

発行人：おち辰哉後援会
日立市多賀町4-1-19
(日立製作所労働組合 日立国分支部内)
TEL 0294(33)0615
FAX 0294(38)5522



日頃のご支援に感謝申し上げます。

例年のない暖冬の影響により、桜の開花や道端の草花など、確実に春のたよりを運んでいるように感じます。

新型コロナウイルスは、まだまだ収束が見通せませんが、1年前と比較すると、少し落ち着いて春を堪能することができるようになったかと思えます。

今年度も、何らかの制限があるなかでの生活が続きますが、皆で協力しながらこの難局を乗り越えましょう。

越智辰哉

◀桜の見頃を迎えた阿漕ヶ浦公園にて

NEWS ~ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ~



勝木田下の内線の一部供用開始

3月28日から、勝木田下の内線の一部が供用開始となり、東海駅東大通りと中央地区の区画整理地内との往来が可能となりました。

この路線は、区画整理事業の一環として整備された都市計画道路であり、神楽沢橋を含めた幅員16m、全長約800mの工事が完成しました。本路線の供用開始により、交通分散による渋滞の解消や、東海駅や東海病院などへのアクセス向上が期待されます。

今後は、橋梁下の地形を活かした神楽沢近隣公園の整備事業が本格化するなど、周辺環境が大きく変化することから、事業の進展を注視してまいります。



村政報告会のお知らせ



【日時】5月23日(日) 10:45~11:30

【場所】東海村産業・情報プラザ(アイヴィル)

※感染症拡大の状況により、急きょ中止する場合があります。

歴史と未来の交流館 7月開館に向けた条例制定

令和3年3月定例会を、3月1日から24日までの会期で開きました。
今議会では、歴史と未来の交流館の設置および管理に関する条例の制定や、令和3年度予算案など全33件の議案について慎重審議し、すべて原案のとおり可決しました。



交流館建設を振り返って



▲設計当初の外観イメージ



▲最終的な外観イメージ

交流館建設については、平成28年度から具体的な事業計画に関する議論がスタートし、5年の歳月を経て、建物が完成しました。

議会としては、施設そのものの必要性や建設コストはもちろんのこと、利用方法や住民の理解促進など、様々な視点で何度も役場担当課と協議を重ねてきました。

特に、基本設計から詳細設計に入る段階において、オープンスペースの拡大や事務室の集約化など、利用者側の視点に立った「交流機能の拡充」を強く申し入れ、設計内容に修正を加えたことは、特筆すべき事項だと考えます。

本年7月24日に開館を迎えますが、世代を超えて多くの方々の交流の輪が広がる施設となるよう、今後も様々な形で提案・提言をしていきたいと思っております。

新型コロナワクチン接種専用コールセンターを設置



4月下旬に高齢者向けのワクチンが本村に配送されることを皮切りに、国からのワクチン供給量に応じて段階的にワクチン接種を進めていきます。

東海村では、住民に身近なかかりつけ医等による個別接種方式で調整を進めており、現時点で村立東海病院ほか村内10の医療機関で接種できる体制づくりを予定しています。

なお、ワクチン接種に関する問い合わせや接種の予約ができる専用コールセンターが開設されました。

☎ 0570-033-271

(月曜から金曜まで(祝日除く)の午前9時～午後5時)



財政見通しは決して安泰ではない?

令和3年度は、常陸那珂共同火力発電所1号機の稼働により、村税が一時的に増収となるものの、令和4年度以降は毎年一定の割合で減少していく基本的な構造は変わらない見通しです。一方、行政需要の多様化による歳出増大が予想されることから、さらなる事業精査と持続可能な歳出構造への転換が必要となります。

こうした状況から、昨年9月に示した行政経営方針において、山田村長は「本村の成長を支えてきた財政力は決して安泰ではない」という厳しい見通しを示しており、今後、こうした見通しを住民といかに共有するかが課題となります。



▲火力発電所の稼働により増収が見込まれるが...

これに注目!

令和3年度の新規・重点事業

まるデジ構想推進事業 (1,255万円)

行政の各種手続きの電子化や人工知能(AI)を活用した総合案内サービスの導入、イベントにおけるスマホ体験講座の実施など、東海村のデジタル化全般を強力に推進する事業です。



キャッシュレス決済ポイント還元 (3,573万円)



村内の対象店舗で携帯電話を用いてアプリ決済した際の金額から30%相当分のポイントを還元します。(1会計につき上限1,000ポイント、10,000ポイント/月)

※4/1～参加店舗募集を開始し、実施期間は5/1～6/30まで

東海音頭制定40周年制定記念 (38万円)



東海村合併25周年(昭和55年)の一環として作成した東海音頭(作曲:山路進一、歌手:都はるみ)の40周年を記念し、防災無線で流している正午の音楽を、夏から秋に限定して、オルゴール調の東海音頭に変更します。